

第 38 回櫻井健二郎氏記念賞表彰

第 38 回（2022 年度）櫻井健二郎氏記念賞は、受賞題目「高効率有機発光材料の創製と光デバイスへの応用」に対し、九州大学の安達 千波矢氏に授与された。



第 38 回櫻井健二郎氏記念賞受賞者
安達 千波矢氏

櫻井健二郎氏記念賞は、当協会の理事であった故櫻井健二郎氏が光産業の振興に果たした功績を讃えると共に、光産業および光技術の振興と啓発を図ることを目的として創設したもので、今回の表彰を含め、合計 70 件、延べ 176 名が受賞している。

2022 年度の第 38 回櫻井健二郎氏記念賞は、光産業および光技術の分野において先駆的役割を果たした 2011 年度以降の業績を対象に、応募 7 件の中から厳正な審査により選考された。

上記の表彰は、2023 年 2 月 8 日にリーガロイヤルホテル東京で開催された 2022 年度光産業技術シンポジウムの終了後、同会場にて行われた。

表彰式では、櫻井健二郎氏記念賞委員会の荒川泰彦委員長（東京大学名誉教授）による選考経過報告の後、表彰状、メダル、副賞が受賞者に手渡され、その後、受賞者の安達 千波矢氏から謝辞が述べられた。

受賞題目：高効率有機発光材料の創製と光デバイスへの応用

受賞者

九州大学 工学研究院応用化学部門 主幹教授
同 最先端有機光エレクトロニクス研究センター センター長
安達 千波矢（あだち ちはや）

受賞理由

受賞者は、大型テレビなどに用いられている有機発光ダイオード（OLED）の研究開発に黎明期から携わり、電子輸送層を有するダブルヘテロ構造をいち早く提案するとともに、発光層に従来の蛍光材料に替えて燐光材料を用いれば内部量子効率がほぼ 100%となることを実証した。また、分子設計の自由度が大きく、レアメタル・フリーな熱活性化遅延蛍光材料を創製し、ほぼ 100%の内部量子効率の OLED を実現した。さらに、色純度を上げて色域を広げた OLED の開発や有機半導体レーザーへの挑戦にも意欲的に取り組んできている。このように、受賞者は、有機分子の発光についての深い知見と洞察に基づき、高効率な有機発光材料を創製することにより、OLED の学術的基盤の構築に貢献するとともに、その実用化に向けた研究開発を主導し、我が国の光産業とりわけディスプレイ分野の発展に貢献しており、本賞に相応しい業績である。